
茶会

伊能元帥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

茶会

【Nコード】

N9374J

【作者名】

伊能元帥

【あらすじ】

大きな屋敷で、様々な人物が茶会を開いています。

(前書き)

よく分からないものを書いてみましたw

かなり大きな屋敷に、何人かの人々が集まる。

屋敷は太陽の光を浴び、白い壁が光り輝いていた。
良い天気で清々しい。新しい建造物のようだ。

私は屋敷へ入った。執事らしき人物が出迎え、奥の部屋へと案内された。

「ご注文がありましたらいつでもどうぞ。ごゆっくり」

集まっているのは気品の高い人々ばかり。自分で言うのはおかしいが、多分、私も少しの気品はあるだろう。

ステッキを持ち、髭を付けたコメディアンのような老紳士がいる。
笑顔で紅茶を飲みながら、くつろいでいるようだ。

その横にドレスを着た老婆がいた。
年老いても控えめなドレスが似合う。女王のようにも見えた。

そしてその横に少女がいる。少女は12歳程度にしか見えないが、
黒と白の洋服で気品が溢れている。
老婆と話をしている時も落ち着いていて子供とは思えなかったが、
時折見せる子供らしい表情を見て、
私は少し安心しているのだった。

老紳士の横には、もう一人、明治時代の政治家のような人がいた。

仕事から解放されたサラリーマンのように安らいだ表情をしている。

その更に横には学者のような人物が座っていた。
眼鏡をかけ、黒い服を着て微笑みながら老紳士と話していた。

私は思いきって話しかけてみることにした。

「私もお話に入らせていただけませんか？」

すると快く受け入れてくれた。仲間になれた気がして、この年にもなって嬉しくなってしまった。

この屋敷の茶会、誰でも参加できるそうだ。

しかし、この人数でゆっくりと話しているのが楽しい。

・・・私のわがままで、できれば貴方が茶会に参加するのはもうちょっと後にしてもらっていい？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9374j/>

茶会

2010年12月31日23時16分発行